



### 和歌山紀北教会 献堂式 教会の母聖マリア聖堂誕生

6月4日(土)14時、酒井俊弘補佐司教によって和歌山紀北教会の新聖堂の献堂式が行われた。担当司祭のパウロ・セコ神父はじめ、10人の司祭が共同司式。当日は晴天に恵まれ、約270人が参列して聖堂の完成と奉献を祝った。

昨年6月に旧聖堂の解体工事が始まり、ちょうど1年後に新聖堂が完成。ミサの中ではまず竣工式が行われ、教区より設計・施工会社へ感謝状の贈呈と謝辞が述べられた。

続いて、参列者にとっておよそ一生に一度であろう献堂式が行われた。水の祝福から始まり、灌水で新聖堂そのものが洗礼を受けて神の民の一員となった。朗読台からは神のことばが読み上げられ、聖堂は神が語られる場に、また全面に香油が塗られて聖別された祭壇は、キリストそのものといえるようになった。式の最後には、キリストが万民を照らす光であることを示そうとそくが灯され、新聖堂はこの日をもつ

て「教会の母聖マリア」を保護聖人にいただいた。聖体拝領後、小聖堂の聖櫃にご聖体が納められ、40人の信徒による聖歌「アヴェ・ヴェルム・コルプス」の歌声が聖体安置に花を添えた。

予想に反し、多くの人が参列して献堂の喜びをともにできたことに感謝しつつ「次の60年後もこの聖堂が今日のように人で溢れますように」と酒井司教は派遣の祝福の時に語った。聖堂の特長はゴシック様式の高い天井。通称「コウモリ天井」と呼ばれ、梁の交差部が尖塔状になっている。皆様、どうぞ巡礼にお越しください！  
(文 和歌山紀北教会信徒)



### 東日本大震災追悼11周年祈念 東北の教会を訪ねて

昨年3月以来延期となっていた本巡礼。6月18〜20日(土)月、酒井俊弘補佐司教以下17人での旅が実現した。巡礼の参加者に感想をいただいた。

巡礼では7つの教会(花巻、遠野、釜石、大船渡、一関、気仙沼、水沢)を訪問。大船渡、陸前高田、気仙沼では震災遺構や資料館を回り、大籠キリシタン殉教公園の資料館ではキリシタン遺物を見学した。

カリタス大船渡ベースでは、津波の時のビデオを見ながらお話を伺い、陸前高田の「海を望む場」で祈りをささげた。そこで保存さ

れた「奇跡の一本松」を見学。7万本の松林は津波で流され、この一本だけになつたが、震災6年後から4万本の松が見事に植樹され、50年後の松林再生が待たれる。

気仙沼東日本大震災遺構・伝承館(旧向洋高校)では、語り部ガイドの案内で施設内を見学。津波の威力を目の当たりにし、震災遺構を遺すことの大切さを

一関教会では佐藤守也神父が教会の歴史について、また水沢教会では高橋昌神父が後藤寿庵やペトロ口岐部はじめ、奥羽地方における殉教者についてお話しくださった。7つのカトリック教会、震災遺構、東北の殉教者のお



「陸前高田・海を望む場」で



▲ 東北巡礼記録動画 ▼



話と、盛りだくさんで有意義な3日間であった。

### 東京カトリック神学院の院長職を終えて

松浦信行神父に聴く神学院の歴史

2009年、東京と福岡の神学院は「日本カトリック神学院」として合併したが、10年後に分離。神学生養成に12年携わり、そのうちの5年間、神学院院长として勤めた松浦信行神父に、神学院のこの十数年の歴史と最近までの様子について伺った。

#### 再出発へ

私はこの3月末で東京カトリック神学院の3年間の院長任務を終え、サクラファミリアに赴任した。私的な理由と後任に席を譲らなければとの思いから、この3年にある程度の道筋をつけたかと思っていた。

#### 神学院合併当時

2009年に福岡と東京の神学院が合併した時も、私は東京の神学院の責任者だった。その時は10年以上かけて東京と福岡のスタッフの交流から、準備万端で始まった。東京は「資金と講師不足」、福岡は「資金と講師不足」という互いに欠点を補いあう形の合併であったわけだ。

しかし、合併から10年経つと欠点の方にも目が向けられるようになった。2つのキャンパスに分かれたことで神学生同士の交わりが薄くなったこと、神学院に対する期待感が東京と福岡で違っていたこと、養成に対する手法の違いなど、いろいろと問題が出てきた。

そうして、何年かかけて一つの神学院へと移行させる動きは突然、以前の形に戻す動きになった。何が大きな原因かは、当時神学院から離れて小教区で働いていた私には分からない。

福岡の神学院の良さは、スタッフの「共同体性」である。院長はまとめ役で、スタッフがそれぞれ



松浦信行神父